

市原市の水稲経営安定化に向けて

～飼料用米専用品種の展示ほを設置～

1 活動のねらい

市原市農業振興協会の水稲部員 120 名は、市原市内の水田の主要な担い手となっています。水稲部員の経営の安定化に向けた飼料用米専用品種の周知と普及を目指し、関係機関と連携して展示ほを設置しました。また、現地検討会や研修会を通して情報提供や意見交換を行うこととしました。

2 課題の背景

市原市では、稲作の経営安定のために飼料用米の作付が拡大していますが、一般品種を作付けている農家が依然多い状況にあります。飼料用米専用品種（夢あおば、アキヒカリ）は、一般品種と比較して多収で耐倒伏性に優れるため、作期拡大や所得向上が期待できます。また一般品種については、飼料用米を栽培することで支払われる交付単価が、令和6年から段階的に引き下げられることとなっているため、更なる経営の安定化に向けて、飼料用米の専用品種に取り組む必要があります。

3 普及活動の経過・結果

(1) 展示ほの設置

水稲部員や関係機関と連携し、市原市内3か所で専用品種の展示ほを設置しました。展示ほの栽培農家には、品種特性に合った栽培管理や肥培管理をしてもらった結果、3か所全てで市原市の標準収量（527kg/10a）以上を確保することができました。



写真1 青々とした夢あおばの展示ほ

(2) 現地検討会や研修会の開催

8月に現地検討会を開催し、3か所全てのほ場を水稲部員と巡回しました。稈の太さ、茎数や草丈などの一般品種との違いを確認するとともに、葉色の濃さを見てもらうことで、収量を確保するための肥培管理方法を周知しました。

11月には研修会を開催し、今年の水稲の作柄を振り返るとともに、展示ほを水稲部員で共有しました。



写真2 現地検討会で意見交換

展示ほを設置した部員や参加した農業者間で、栽培時の注意点や収量の確保ポイント等、活発な意見交換が行われました。

4 農業者の反応

令和6年度には複数の農家で専用品種を導入予定です。2つの専用品種は熟期や稈の太さなど、品種の特性は異なりますが、現地検討会や研修会で展示ほの結果を周知したことで、それぞれの経営に合った品種を導入する意識が高まりました。

5 今後の課題

展示ほでは生育の後半で葉色の急激な低下が見られ、㎡あたりの籾数と登熟歩合がやや少ない結果となりました。収量の確保に向けて、後半まで葉色を維持できるような管理が重要であることがわかりました。緩効性肥料が含まれた一発肥料を施用した場合についても、追肥や堆肥の施用を検討していく必要があります。また、次年度から新たに専用品種の栽培を始める農家については、収量確保に向けたサポートをしていきます。

表1 生育調査結果

栽培地点	品種	植付日	栽植密度 (株/㎡)	幼穂形成期				出穂10日後調査				
				調査日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (SPAD値)	調査日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	葉色 (SPAD値)
展示ほ①	アキヒカリ	5月3日	50	6月20日	59.0	468.9	49.2	7月21日	81.0	18.3	368.2	42.1
「アキヒカリ」の生育目標値(壤土)				60前後	450~500	-	-	-	-	-	400~450	-
展示ほ②	夢あおば	5月11日	50	7月12日	82.0	381.8	44.0	8月15日	93.0	19.5	296.8	31.5
展示ほ③	夢あおば	5月11日	56	7月4日	79.0	437.5	45.0	8月4日	80.8	23.0	287.7	34.8
「夢あおば」の生育目標値(壤土)				75前後	400~450	-	-	-	-	-	300~350	-

表2 収量構成要素調査結果

栽培地点	品種	収量構成要素						実収量
		穂数 (本/㎡)	一穂籾数 (粒)	㎡当たり籾数 (×100粒)	登熟歩合 (%)	不稔歩合 (%)	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)
展示ほ①	アキヒカリ	400	92	365	86	4	21.9	600
「アキヒカリ」の目標値		400~488	90~100	400~450	70	10	20~21	-
展示ほ②	夢あおば	297	118	351	63	16	23.2	570
展示ほ③	夢あおば	288	124	358	70	10	23.5	600
「夢あおば」の目標値		300~325	130	400~450	70	10	23~24	-

5 担当者 市原グループ ◎小野英吾、田口巧

6 協力機関 市原市、JA市原市